

伊ち おおいた市推しショット!!

石畳の両サイドに、美しいシダレザクラ 
 ここは、江戸時代の参勤交代道として利用された肥後街道の
 歴史がいまも色濃く残る、野津原・今市石畳です 

こちらのシダレザクラは、例年3月下旬から
 4月上旬にかけて見頃を迎えます 
 風情ある石畳を散歩しながら、春の訪れを感じてみませんか? 

車でお越しの際は、「今市石畳ひろば」の駐車場を
 ご利用ください 



写真は、昨年の様子です。

市公式 SNS では、旬な情報を発信中!








市公式 SNS はこちら▲

わが家のおかずにも! おおいた香り野菜レシピ



みつばどっさりパスタ



生産者の声

JAおおいたみつば部会
 部長 三宮 堅司さん

「生産者の声」
 全文はこちら

一般家庭に浸透しにくいのが悩みですが、みつばの香りや食感などを実際に体験してもらうことが大切だと考え、3月8日を「みつばの日」として、市内小学校や福祉施設に部会からみつばを無償提供し、地元消費や食育に力を入れています。

●材料

みつば	60g	B	バター	20g
アサリ(事前に砂抜き)	300g		しょうゆ	小さじ1
にんにく	1片	A	フェデーニ (1.4mmパスタ)	140g
水	350cc		塩・こしょう	各少々

●作り方

- ① みつばは2cmくらいのざく切りに、にんにくは叩いてみじん切りにしておく。
- ② フライパンにAを入れ、蓋をして強火にかけ、沸騰させる。
- ③ パスタを半分に折って②に入れ、途中で混ぜて煮汁を吸わせながら約6分煮る。
- ④ 水分が無くなったらBを加え、味を見て塩・こしょうで調味し、仕上げにみつばを加えて混ぜれば完成。

農政課 ☎537-7025


 大分市公式動画チャンネルでは、
 その他のレシピも公開中!

市民図書館からのお知らせ

市民図書館(室)は 蔵書点検整理のため休館します

期 間：3月6日(月)~16日(休)
 休館施設：市民図書館、コンパルホール分館、鶴崎・植田市民行政センター各図書室、各地区公民館図書室、各校区公民館での予約本の受け取りもこの期間中はできません。

※休館中の本の返却場所…J:COM ホルトホール大分北側入口、コンパルホール分館入口、鶴崎・植田市民行政センターの「図書返却口」、各校区公民館の「図書返却ボックス」



市民図書館 ☎576-8241

このコーナーでは、市民図書館が所蔵している
 新刊を紹介します。



この本はよまれるのがきれい

ダビッド・サンデン：作 青山南：訳
 すばる舎

この本には「読まれたくない」という意思があります。子どもに寝付いてほしい大人は、何とかして読もうとしますが、本はあの手この手で読まれるのを妨害します。最後まで読むことができたならあなたの勝ち。でも、かえって眠れなくなるかも。

日本全国タイル遊覧

吉田 真紀：著
 書肆侃侃房

タイルという呼び名で統一されて100年。著者は旅に出るたびにタイルを求め歩くとのこと。タイルには歴史を見守ってきたものや地域で愛されているもの、大きさやデザインもさまざまあります。旅先で珍しいタイルとの出会いを楽しんでみませんか。



人権・同和教育シリーズ 531

人の生き方を考える



自分の中にある差別心

昨日、体育館で人権 同和教育講演会が行われました。わたしは思わず「めんどくさいなあ。わたしには関係ないし」と考えながら参加したのでした。

講演会では、講師の先生が、自分が差別部出身者であることを告げたうえで、自らが受けた差別についてしっかりとした口調で語っていました。それはわたしの予想していた内容とは全く違うものでした。

「結婚を反対されたときは本当につらかった。みんなはつらいとき誰かに相談できるよね。でもね、ぼくは簡単に相談できなかつたんだ。一番聞いてもらいたいことが、一番言い出せないことだから…」と語るのです。わたしは部落差別があるという現実を驚き、その結婚差別の話に心をかきむしられたのでした。その後、講師の先生は理不尽な部落差別の解消に向け、自分自身も仲間と共に学び合ったり、自分たちのふるさとの素晴らしさを知ってもらうため積極

的に交流活動に取り組んだり、今ではふるさとを胸を張って誇れると話してくれました。

講師の先生の話にすっかり引き込まれたわたしは「すごいなあ」と憧れのような感情を抱いていました。すると講師の先生が「ぼくのふるさとをすてきなであつて思ってくれた人？」と言うのでわたしは迷わず手を挙げ周りをみると、多くの人が同じように感じていたのです。すると講師の先生が言うのです。「じゃあ、ぼくのふるさとに住んでみる？」と。

わたしは頭の中が真っ白になり、何も考えられずにいると、講師の先生は優しくゆつくりと語り始めました。「みんなが、結婚差別に怒りを覚えたり、ぼくのふるさとをすてきだと感じてくれたことは本当にうれしい。でも、自分が住むつてな瞬間、自分事として考えたんだよね。大事なものは、ここだよ」と、胸に手を当てるのでした。

自分の中にある差別心に気付き、しっかりと向き合うこと。わたしが変わるきっかけになった講演会となりました。

差別は「する側」の問題であること
 を認識し、他人事ではなく自分事として受け止めていくことが部落差別をはじめあらゆる差別の解消につながっていくのです。